六日夕刊
磐城新聞
休刊 大祭日
定價 壹枚二錢、壹ヶ月五十錢、郵税十錢
廣告料 二行平錢指定廿錢增
發行兼編輯印刷人 遠沼龍輔
發行所 福島縣平町田町拾六 磐城新聞社

明年三月に起工する 平局舎の新築
當初豫算二十五萬圓 電話局は獨立

平郵便局の移轉新築問題に就いては御大典其他の關係で起工を延期されて居たが主務當局では目下右工事請負者の選定中にあり決定次第來春一月早々四丁目敷地六百坪に建設着工する事になり各種準備を進めて居るが而して之れに要する工費は最初二十五萬圓を以て本筋コンクリート一棟總二階建の計畫であつた處電話交換臺が複式に改革される關係から從つて工事規模が擴大される事になり電話局舎は獨立の鐵筋コンクリート二階建となす事に決定し都合二棟を建設されるが之が總工費も嵩み約三十萬圓を要する大々的のものとなるわけである

第一校の 組長會議
月次會を開く

平第一小學校では全生徒中より選拔してゐる組長級長會議を四日午後二時半より同校講堂に曾我校長以下各訓導列席の上開催惡風の矯正思想の善導等大袈裟な協議をなしたが組長、級長は何れも九歳以上十三歳以下の少年であるも議案を説明するその態度並に論旨は全く洗練されてゐるので居並ぶ訓導連も舌を卷いて感心してゐたなほ同校では今後月一回宛會合して之の種の協議會を催すことゝなつたが一般少年の惡風矯正は家庭及び學校よりも模範少年の指導によることが好成績を收めるので同校ではこの方面に全力をそゝぐさ

植田郵便局
十一月中成績

植田郵便局十一月中の業務成績は左記の如く郵便貯金は十月中に比し受入にて八百九十圓四十錢增加し拂戻しは三千二百四十八圓五十五錢減少してゐる狀態

貯金は著しく增加を示した

貯金受八百五十口一萬七千七百十九圓八十六錢拂三百四口一萬一千七百十五圓四十錢、振替受二百三十四口四千四百九十七圓八錢、拂三十五口一萬三百五十一圓二十六錢、爲替受三百五十五口一萬二千七百十一圓六十九錢拂三百八十一口一萬三千八百七十圓九十三錢、書留郵便受七百一通配達六百五十三通、普通郵便受三萬百五十三通配達三萬七千三百九十五通

片寄警部補 榮轉
後任は喜多方 平田警部補が

平署次席片寄警部補は縣警察部警務課勤務に後任は喜多方署次席平田警部補が榮轉すると決定昨五日午後五時發表された

當局腐心の甲斐なく 收益税滯納續出
納税組合の齟齬が齎した 遺憾な徴收記録

去月中は屡報の如く營業收益税資本利子税畑租雜地租等各國税の納期に相當し而も國税としては年中を通じ最も納期輻輳してゐる月なので平税務署及管內各町村役場にたいしては過般銀行臨時休業に伴ふ徴收上支障を顧慮しその間遺漏なきを期すべく細心の注意を拂つてゐた甲斐あつて一時發慮された勿來、湯本、四倉等の各町にたける收益税は幸ひ何れも完納の好成績を擧げたが平町の營業收益税は九千九百十一圓八十六錢この納税金四百六十九人で全管の二分の一以上を占めてゐるだけに時節柄それが徴收上の困難一方ならず納入打ち切りの時期等に就き税務署町役場とも曾てなき寛大な取扱ひをなし各納税者の便宜を圖つたが遂に四百八十三圓五錢この人員三十七人は五日朝までには如何にしても納入するに至らず茲に滯納者の取扱ひをなすべく餘儀なき結果に陷り從來收入步合九、九七或は八を下る事がなかつた同町國税收の上に極めて遺憾な記録を作るに至つた

借金封しの方辯に 殖える同族會社
石城郡だけで百余に達す 流石當局も果然

磐城銀行の休業に次いで四倉銀行の支拂猶豫、平銀行の休業と相次いで融通の地方財界は金融梗塞に弱り切つてゐるが苦しい中產階級の商店や工業者は債務の督促に堪へかねて支拂猶豫を求め若しくは脫税の手段として合名合資の同族會社を設立するも激增し殊に本年に入つてからその傾向著しく平税務署管内には現在百六十の營利會社設立されしゐるがその內百二十位は同族會社で占めてをり税務當局も激增に驚いてゐる

四時川橋の 改修
縣補助を待つ

石城郡川部村大字小川字北ノ內及び大字沼部字鹿動間に通ずる四時川架橋は去る八月一日の洪水に流失した爲に假橋を以て漸く通行に使用するも車馬の往來を見ず不便尠からざる爲め村當局に於て過般村會の決議により工費一萬八百六十一圓を以て新に架橋する事になり內六割の縣補助を仰ぐべく申請した、然して土木監督

所より所員出張查定の結果橋の延長二十八間の中二十一間を吊橋七間をケタ橋とする前の設計を變更し全部吊橋とし工費八千餘圓と變更したが同村では縣より補助指令あり工事に着手する筈である

國有林の 火災損害
平營林署管內 一千三百餘圓

平營林署管內今年ノ國有林火災損害は總額一千三百十二圓で被害地十九ケ所面積六十餘町に亘り猶ほ百五十町の山火事があつたが芝草の繁茂した山に被害極めて薄かつたが毎年の火災に困じ果てた當局では豫防策として十二月より來春五月頃まで巡視人二十二名を置き絶えず警戒する筈であるが電話の便ない山林にはこのほど新しく試みとして鳩を購入し養成し災變の際に人夫の準備等の報知に備へ十二月末には經費八千圓を投じ三坂、小川の二十七キロ間に電話の增設を計るなど種々これが災害の豫防を講じてゐる

讀者欄
勝利を得る者
竹十郎生

當局は云はずもがな民衆も足元から鳥がたび立つ愕いたもんだがこ頃堂々赤い國のゴ本尊を現した赤いビラが通りの電柱にはり出される、次第にその筋も民衆も慣れたものか大して問題にしないらしい。

目るともなくそのビラを見ると「勞働者よ立て」[illegible]興廢この一戰と云はんばかりのあはやぶりで血染た樣な檄文を連ねて居る。

一方學校の講堂や公會堂あたりで名士の講演・國尊嚴、犧牲・服從の美風高唱した穩健な御説を拜聽する。俺にはどうも理屈のある樣でどうも分らなくなる。

假りに、俺は世間並に前者を「詭激」と後者を「穩健」と又赤いビラを目穩健な御説を拜聽する俺達を[illegible]代思想の流れを次の樣に目たい。

少數の人が詭激に走り少數の人が穩健を守り多數の人が「低徊」を續けてゐはしないかと然し「詭激」思どい赤色を好む少年の熱血と破壞と生一本があり「穩健」に錆を好む老人の保守と健實と衰殘があり「低徊」に據らぬ年の滿と批判と懊惱とがありせぬか。畢竟低徊組をキャスチングボートとして詭激[illegible]合つてることは事實である

そこで兩極端の分野に立俺達低回組の進退去就が結局これを左右することになりはしないか。俺達低回組は何時まで床次さんをまつてゐてはいけない。

要は時の問題で俺達の孫の時代には統一を見ることあらう。俺達は輕擧盲動を警しめ合ひ孫の時代にキャスチングボートとして擧措を誤らぬ樣よく嚴正批判して去就を明かにしよう

明日の吉凶
舊十月廿六日 新十二月七日 暦

▲一白 內に在りて怠りなくば福徳おのづから外より來る▲二黒 思はざる引立てに逢ふことあり但し口舌注意▲三碧 輕卒に走りて思はざる失敗を招く事あるに注意▲四綠 困難多く容易に安全の域に入り難き注意[illegible]この日の企業は永久に榮ゆべし▲六白 柔順にして目上の言葉を尊重すれば引立に逢ふ▲七赤 無理を行ふ時は後日その反動大に來るべし▲八白 この日小さく始めし業は後日大となるべし▲九紫 內も外も穩かならぬ日常業に忠實たるべし

講談 幕末秘帖 狂恕亂心 (107)
渡邊默禪作 宮野歌春畫

「今なあ、角力取が大勢來なはつて、二階の浪人者を出せ、出さんちうなら此の住吉を叩き潰して薪にすると無茶を言ひ出し居つて明きまへんに依つてな、早うお逃げやす、エ、外に逃げる口も有らへんさかい、雪隱の穴へ這入つて肥取口から偷うて出なはれ」

瞿々どうした眼の蒼くなつての注進である。五人は顏を見合せて

「ハ、ア、今の奴が仲間を引張出して復讐、參つたな」

「諾」と芹澤は笑つて

「コレ女中、決して騷ぐことはない、只今逢うてやると左樣に申せ、アハ、莫迦なことを……厠の掃除口から逃出す奴があるか、どら猫ではあるまいし、只怪我をさしては氣の毒だ家內一同隣家へ立退いてゐるが宜しからう、ドレ／＼どんな樣子ぢや」

と刀を押取つて二階の表に向つた欄干の所へ出て、樓下を一寸覗いて見ると物々しや三十何人の力士組、[illegible]捻鉢卷に尻掛げの身輕い打扮をして手に手に五六尺の八解棒樫、鐵のたがをはめた打物を携へわや／＼と犇き立てゝゐる

と看て芹澤は四人を顧みて嘲笑いた。

「方々御覧じろ、殊勝な奴等ちや、こりや好い酒興の腕試しが出來申すぞッ」

ど、ど、どッ！同時に階子段の下に氣立ましい聲音力士は檻を破る猛獸の勢ひ板を蹴つて蓊然と躍り込んだ

當時大阪力士として最も聞えたのは湊由良右衛門と小野川秀五郎で江戸力士の雲龍や不知火など列び稱へられてゐた。殊に小野川は氣慨もあり任俠に富み安政年間ト阪してゐた水戸藏屋敷の留守居役、勤王の鵜飼吉左衛門に見込まれ尊攘大義に加擔して力を國事につくしたらしい、浪花の人氣を一身に背負つた伊達衆である。恰かもその際天下の奇觀とうたはるゝ夏祭の一つ、御靈神社祭の武者供奉のあつた日で難波新地に角力興行負傷した碇潟と他の一人が逃戻つて斯くと仲間に告げた、何がさて、氣負の力士、それとばかりに直ちに復讐の準備、小野川が一朝事ある折柄に相應の武器がなくてはと豫て銘々に渡してあつた樫の八角棒を押取るより早く一團宙を飛んで北の新地に押寄せ芹澤等が住吉に居ることをも突止めて、怒濤の如くになだれ込んだのである。

此方は寧ろそれを歡迎した、大阪へ來て手空で歸るのも何とやら同志へ面伏、是は好い土産話が轉り込んだものだ、ぐらゐに想つた[illegible]のである。いで一泡吹かせてやらうと袴をからげて早襷、白刄を翳して待受けた

「やいッ！素浪人奴ッ、先刻の怨を覺えてゐたかッ、その返報は叩きなますちア野郎、覺悟せい」

破鐘のやうな聲を揚げて沙漠を跳ね駝鳥の勢ひ一飛に階梯段を上つた碇潟が角棒をビーンと唸らして正面に立つた芹澤の眞向から打つて下すと見る間にあつと叫んで、どゞどッと俵落し味方の味方の足下にころがつて來た、肋から颯と吹く鮮血拔討に芹澤の一刀を浴びたのである

◆吉例年末謝恩第二回興行◆
彌次喜多大會
大日活超特作大劍喜劇 中
主演 酒井米子 河部五郎 大河內傳次郎 新妻四郎 浦邊粂子 葛木香一 ◆他オールスター總出演
第一篇 尊王の卷（全十卷） 時世…菊は二度咲くと唄ふ彌次喜多にも尊王の叫びあつた
第二篇 韋駄天の卷（全十卷） 勤王の士は新撰組と爭つた、彌次喜多は韋駄天の如く……
第三篇 伏見鳥羽の卷（全十卷） 戰雲…血腥慘狀…彌次喜多は逆上して錦旗をひるがへした
當ル六日ヨリ上映 普通席 金十錢 平館

痔の最高內服藥 ダイサン錠
鼻のクスリ チクノール錠
平町五丁目角 山野邊藥局

內科、小兒科（院長每日療）
院長 醫學博士 難波睦
副院長 醫學士 五十嵐雄次
內科部長 醫學士 伊吹彪二
外科一般
外科部長 醫學士 氏家憲介
毎日曜手術 醫學博士 鈴木退輔
產婦人科、女子泌尿科
產婦人科部長醫學士 五十嵐雄二
顧問 醫學博士 川添正道
×光線科
主任 醫學博士 難波睦
本院顧問法制囑託 法學士 岡蕃
本院主事 賀澤忠治
御大典記念事業トシテ
一、衛生試驛所（共濟病院內）十一月一日ヨリ開始
一、病氣相談所（共濟病院內）十二月一日ヨリ開始
一、救療所（共濟病院內）十二月一日ヨリ開始
看護婦見習募集
磐城 共濟病院 平町電話六四一番

平町紺屋町 吉田眼科醫院

預金の賣買を致します
▽賣買の手續は無料で致します
(ト) 平町仲田町 駒場株式店 電話四六五番

外科一般（入院隨意）
內臟外科專門
花柳病科
平町六丁目（橋際）
木村外科醫院 電話三〇九

良品廉賣に勝る商略なし
磐城平町五丁目
磐城セメント株式會社特約代理店
和洋銅鐵金物問屋 (久) 釜屋商店 諸橋久太郎
電話九一・一三九番 振替貯金口座東京一〇九五六番
確實敏捷は(久)の生命なり

醸造元 清世界 (吉)
銘酒
各炭鑛御用達
石城小名濱町 清水屋 小野晋平 電話六番

夜間診療
胃腸 內科 十二指腸虫病 專門 內科部
梅毒 淋病 婦人病 皮膚病 專門 外科部
平町南町 今村病院 電話七〇一

內科、小兒科
花柳病科 入院應需
藤沼醫院
平町紺屋町 電話平局五〇七番

聞くさい脅ゆ 犯行數々を自白
暴行脅迫を常套事に 爆烈團檢擧後報

平町及び內郷村を中心にして脅迫、暴行をほしい儘にした不良爆裂團一味の檢擧取調べに就ては何等か新に恐るべき犯行を發見したものゝ如く昨報の如く歸入團員十數名を召喚し嚴重取調を行つた結果新團員が

續々現れ いもづる的に擧がるので係官も目を廻して居り今後何時檢擧打切りになるか殆ど豫想つかぬ有樣である右團員は主に磐城炭礦を中心に團員を募り暴行脅迫を行つて居たものとみるこれがため磐城炭礦勞務課では平署と協力各方面の調査を開始したがこの爆裂團の發覺した動機は去月二十日夜磐城炭礦會社の御用商人綴居住鈴木魚屋を高坂の暗やみで脅迫した上所持の鐵輪で眉間を撲り傷害を與へたことからで高坂礦電工早坂某にも同樣の傷害を加へ越えて二十八日夜磐城劇場に於て活動見物中の清水某に喧嘩を吹つかけた上鐵輪樣のもので頭部を撲り

傷害を與へ 更に高坂居住關某の長男某（一八）に五十錢を與へ副首領格の西村が某所に連れ行き入隊を強制したが同人はこれを拒絶した事更に團員は夜になると五人、十人を一組として各方面に出動し通行人を捉へ金錢を強要歸女子と見れば暴行を加へて來たものであると

の如くだが之等爆裂團の系統ならびに手配を見ると內郷村磐城炭坑職工の一味らしく、同炭坑の神村十郎（一九假名）高坂坑職工大串源（二一）の兩名が主謀者となり同炭坑製作所並に高坂、町田

方面の末 青年者を計劃的に勸誘し十月二十八日磐坑電車停留所前そば屋勝田屋方で發會式を擧げた同日午後十時町田坑專用線路で西村外數名が同坑第三車庫工夫眞弓勇を殴打したのを皮切に猛威を振つた爲め端なくも發覺するに至つたものだ團員の年齢は最高佐藤仙太郎（三五）整低佐藤一男（一七假名）で團員は軟派硬派の二つに別れ

組織的な 活躍をなすべく段取りを講じつゝあつたものでこれと共に平署では更にゝ町內の不良青年團の檢擧をなさんと目下準備中である

バクレッツ團起訴 二十八名に達す
連累者の檢擧終る 平署綴かを引揚ぐ

既報石城郡內郷村を根據として活動を企圖したＴＮＴ爆裂團の檢擧は大體たれ、其連累者の檢擧も終つたので五日午後七時ろ結縣刑事巡査駐在所の調査本部を

引揚げ三 署檢事は晶伐平署に出張陣上で引致者取調の結果檢擧者總數三十七名中秘密結社を組織し暴力行爲の廉により起訴さるるものは實に二十八名の多きに達する者、武田檢事は檢事正の指揮を仰ぐべく五日午前五時半稿した事既報

若い燕と狂ふ 多情な母親
家を出て流浪する 可憐無智な小娘

石城郡極田町驛前周旋業大山かつ方に四日午後四時頃年齢十五六歳の娘が訪ねて來て「

何處か好 い働き口がなかつたら世話して貰ひたい」と云ふので生れを聞いて見ると水戸といふだけで更に要領を得ず「母ちやんが働きに行つても宜いといふから來た」と答へる始末に不審の點ある爲め夕創植田署に連出したが右は水戸市料理業サキ長女富田イク（一七假名）で去る二日夜

母親より 十圓を貰ひ受け平驛迄切符を求め三日朝同驛に下車したが更に湯本町を志し同夜同町に一泊した上翌四日植田町へ下車して希望の如く働き口を見付ける爲めに前記大山方を訪れたものと判明したが同女が旅立つたのには裏面に

複雑した 事情がある　イクはどうしたものか小學校は一年生を半分しかゆかせられず讀み書きも出來ぬが其後は家庭で手傳ひをしてゐたが數年前父親を失ひその後繼父武雄（三一）を迎へたが母は三十八歳で若い燕を抱いてからは毎に無智な彼女に辛く二日かねて話しに聞いてゐた平町に行き度いと述べたら直ちに承諾して前記十圓を與へたものだといふ　同イクは汽車賃、宿泊料、買喰ひ等で

僅か二十 錢しか所持せぬ爲め同夜は植田署保護を加へ適當な所に世話ししやろうと奔走中である

入山炭礦でも 不良掃蕩
平署活動繼續

磐城炭礦における不良子弟一爆發團一味が平署に續々檢擧されつゝあるは昨報したが同署では取調べ進行と共に同地湯本附入山炭礦に同類の散在するを突き止め四日更に內郷村綴驛前部長派出所を本部とし被疑者數名を檢擧嚴重なる取調べを行ふと同時に隠匿されたた白鞘短刀十余口及び鋼鐵で作つた拳骨の輪「メリケンサック」等を押收したが團員中には磐中卒業一、同校途退學並びに東京工手學校卒業及び平町私立中等學校を卒へたものが主なるものゝ生まれ中教育を受けたものにかくの如きは一般世上から非常な注意を引いてる

食逃げ源治

石城郡泉村大字瀧尻附近で數日前から連續して無錢飲食を働いた原籍兵庫縣岩石郡室埴村上郷目下住所不定無職中島源治（三八）は四日同所飲食店根本よし方で八十五錢の食ひ逃げを演じた處を駐在村上巡査に取押へられ植田署に連行拘留三日に處せられた

神谷村の 小火
厩全燒して 原因は失火

神谷村大字瀨戸農業國井嘉八方厩から昨五日午後六時頃突然發火し折柄の烈風で大事に至らんとしたのを家人が發見消火に努めたので同六時三十分厩一棟を全燒して鎭火中署から大久保駐在出張原因其の他調査中であるが家人が置忘れた蠟燭の火から發火したものであるらしく損害約八十圓

そんなでもない 平町の暮れ氣分
ボーナスを當て込む ◆商街◆花街

や惡疫流行だ、やれ銀行の休業だと右を向いても左を向いても不景氣だの一點張りであつた當地方も流石に二旬餘の後に年瀬控へてゐる昨今では不景氣中にも一脈の生氣を漂はして暮れらしい特有の忙しに溢ぎてゐるで　打續く不景氣風にスツカリ悄化返つてゐた平町の商街花街も惡々銀行會社官廳等のボーナス期と言ふ書入時であるだけに甦つた樣な緊張味を見せてゐる先ず商街は書入れの歳末大賣り出しの下準備、例年の樣に各町毎に聯合し大賣り出しで氣勢を煽り不景氣風を追拂ふといふ意氣込み景品なんかも思ひ切り氣張らうと大いした力瘤の入れ方だから可成の活況を呈する事は疑ひない一方花街方面は新田町、鎌田、南町等各れも御大典奉祝にパット花火に火が付いた樣な景氣を見せ奉祝氣分が薄らぐに從つて漸次火が消えた樣な靜さに返つたが鎌田や南町方面は秋の刈入も終つた農村の若衆達が骨休めで昨今また〳〵幾分の活況を見せてゐる「此の分で年が越せるなら大いした事もないでせうよ」と言ふのを聞けば去年の暮なんかよりは幾分よい事は確實だ　忘年會だ新年會だと矢繼早やな宴會を書入れに今から待ち焦れてゐる料理店藝妓置屋も百圓札のバラ散れた戰前戰後の黄金時代を經てゐるだけに其の凋落振りは著しいが大小百三十を數へる藝妓連がどう工面したか新年の晴衣一切は準備が備つた樣だから此れまた案んじた程の事もなく越年が出來る事は請合ひ兎に角口癖の樣になつてゐる不景氣聲は次第に薄らいで當地方は日益しに暮れ氣分が濃厚となつて來た

哀れな貧困者に 餅代を贈る
例年通り人事相談所が 各方面から寄附を希望

柱にかけたカレンダーも餘す處二十五枚別項の樣に暮れ氣分が漸次濃厚となつてゐる當地方に住む此れはまた哀れな貧困者の群れ……平署の人事相談所では例年餅には勿論新年の着替衣一枚さへ持たない哀れな貧困者の群れに對して人皆み一雜煮を祝はせ喫、春を迎へさせる爲めに餅代として一戸當り三圓乃至五圓位までの金を惠贈して來たが今年も愈々師走に入つたので例年通り餅米と衣類代を贈らうとなり過般來管內の貧困者を調査中であるが昨年は平町だけで十一戸、今年も大体十戸內外の見當で平町を除いた他町村は舊曆の歲末を待つて同樣金品を惠贈する筈である此れに就いて平署人事相談所では

「可哀想な人達の爲めに例年通り僅かづつでも金品を贈つてやりたいと貧困者數を調べてゐるが新年と同樣十戸內外にせう人事相談所にも多くの金があるなら兎に角充分な金がないのですから町內各方面が此等の貧困者に同情されて額は問題でない多少なりとも金品を寄附して相談所の事業を援けて戴ければ結構です」云々と語つてゐた

研究講座
暮の買物の注意
城山　加藤はる子

お正月の御用意に一寸下駄の事も考へしみたい時になりました、今日下駄の材料として殆ど桐材が使用されて居ますがこの桐材一等品といふのは

南部 產と會津產で、これに次ぐものが越後產、關東產は一番わるい品になります、柾目といふのは裏の表の筋目が裏に眞直ぐに通つてゐるものを云ひます板目は表裏筋目が不同不正で表面に半月形に若干の線が現れてゐる樣なもので、板目のよいものは表面の目筋が正しく數の多い無疵なもの、あり、柾目のよいものは目筋が歪まず眞直ぐ

木目 と木目の間隔かなるべく一樣でその上目筋の多いものほどよいのでります、値段も目筋の多いものほど高くなるわけです、材質は柾目でも板目でも硬いものがよいとされてゐますが概して南部ものは軟かく、會津ものは硬くあります、近頃支那產の桐も澤山輸入されてゐますが之は概して色が白くぽくぽばぽくし光澤がありません

柾目 は光線に向けると目筋が見ゆますけれ共光線をさけますと見えなくなつてしまひます、又此頃會津桐に似て赤口といふ支那桐が入つてゐますがこれは一寸內地ものと見分けがつかない位です、しかし支那桐は脂肪分が少く使用するに從つて漸次光澤が失はれ、其の上はいてゐる中に時に目筋の處から割れ易い性質を持つて居ります　それ故

支那 桐はおちはよろしくないわけです次に表です即ち疊表ですが今日では藤とかいふものは殆ど廢つて少し履物にこる人は布張などの變つた表よりもこの疊表のいゝものを喜ぶといふ風ですがこれには南部表バラ表棕梠表等があつて南部表も本南部、支那南部の二つになつてゐます、一般に南部と云はれてゐるものは原料の竹の皮を支那から輸入し藥品を以て

漂白 の上加工した物でその加工產地は各方面にありますが群馬縣が一番大量に產出してゐます本南部は內地產の外皮を精選した上天然色のまゝ加工したものが支那南部に比して色黑ぽく、且星の樣な斑點がありますそして使用すればするほど光澤が出て耐久力が強いです之は生產の少く且値段が高いため履物中でも極

最高 のものとされてゐます、支那南部は色が白く斑點もなく非常に外見はよく見ゑますが使用してゐる中に光澤を失ひ黑ずんで來ます、バラ表は近頃あまり使はれなくなりましたが、棕梠表は一般的に一番迎へられてゐると云つてよいでせう、これは東京府下、練馬、八王子、玉川邊の重なる產地ですが上等品は練馬のものに限られてゐます

原料 は紀州產の棕櫚、若葉を精撰し上加工したものは色が白く光澤があり、編目の細かいものほどいゝ品ですしかし耐久力に乏しく雨などにあびますと直に光澤を失ひわるくなつてしまひます、年末になり履物の贈答もかなり喜ばれる事ですが以上の點に注意して履物だけは五十錢一圓の差でなくいゝものをねらんだ方が爲めにいゝ樣であります。

史劇 坊主と惠美壽講
酒に醉つて寺總代を毆り 遂ひに告訴沙汰

石城郡磐崎村字岩ヶ岡居住岩波忠三郎（七七）は去る二日惠比壽講の祝ひ酒を同村高照寺に於て檀家數名と強たかあほつたあげく同寺院住職と口論を始め友人の仲裁もきかず兩人大立廻りを演じ岩波は住職土屋修善にさんざん毆られたので土屋を相手取り五日平署に告訴を提起したがその理由とする原因は前記土屋は同寺基本金六百餘圓を壇家中に相談なく勝手に銀行から引出し山門その他を新築した爲であると

預金取戾し
內郷村會を開く

石城郡內郷村では休業中の銀行に公金を預金してあり、殊に其の預金を拂戾す必要に迫られてゐるので此程村會を開いて協議した結果中銀行に對して支拂命令の方法をとるか、それとも破產の申請をなすべきかの二つに分れ專問家の意見を徵し何れかの道を選び對策を講ずる事となり委員を擧げて研究中であるが委員は去る四日上京し辯護士岩田法學博士を訪れ前記の二方法の中何れが合法的で而も有効であるかについて研究を依賴した由である

マルト撞球
野木氏の經營に

平町仲田町マルト撞球場は從來鈴木信平町仲田町マルト撞球場は從來信雄氏が經營好評を得てゐたが此程都合に依つて野木次郎氏が替つて經營する事となつたが野木氏は平町撞球界の先覺に持數三百點一般初心者にも懇切に指導する筈で尙來春正月を期し開業披露の大會を開催すると

赤井 納稅表彰
岡部平署長表彰

石城郡赤井村では五日午後一時から同村小川小學校に於て優良納稅組合の表彰式を擧げたが岡部平稅務署長より表彰を受けた組合次の如し

下代組合、小川鄕同、山の入同、赤井第一同、福島炭礦飯場同、一心貯金同、赤井新町同、品川同大正同以上九組合人員百二十七人

廣告

都々逸

「洋服は着よく丈夫で一般むきは品質本位の正札堂」

甲乙の社員が或る會社のテーブルを圍んで

甲「いや君此の頃の不景氣には困つたね……」

乙「ウーン全く困るね、銀行は閉門だし」

甲「時に君馬鹿に良い洋服をおごつたじやないか、何處で新調したんだね色も素敵だなあ、生地も」

乙「ウーンこいつかゐそれ君も知つてゐる正札堂さ」

甲「あアー停車場通りの」

乙「そーだ兎に角正札堂は平町で一番評判がいゝからね……」

甲「全くだよー……評判のよい筈驚くね、どうしてだらう」

乙「それは君都々逸にもある「洋服は品質本位の正札堂」が着よく丈夫で誰も好くとある樣に品が良く價が安いからだよ」

甲「成る程君は素敵な都々逸を知つてゐるね」

乙「マアー洋服は正札堂に限るよ、アハヽヽ、」

甲「アハヽヽヽヽヽ」

正札堂

電燈より接續してすぐ寫る
家庭活動寫眞
パテーベビー活動寫眞機
映寫器　八〇、〇〇
撮影器　六五、〇〇
フヒルム　一本　二、〇〇　二、五〇
生フヒルム　一本　一、〇〇
市內はお伺ひして御覽に供します
御申越次第カタローク進呈
平町二丁目
パテーベビー社代理店
西村屋藥舖
電話三番

改正
片濱乘合自動車時間表

平發	江名發
五時三十分	五時三十分
六時三十分	七時
八時	七時五十分
九時	九時二十分
十時	十時三十分
十一時	十一時五十分
十二時卅分	一時
一時五十分	二時
三時	三時三十分
四時	四時四十分
五時二十分	五時四十分
六時三十分	六時四十分

平のりば　四丁目和泉屋前　新川町車庫　電話二一七
江名のりば　沖見屋　電話十四番
松屋
鈴木片濱自動車部
車庫呼出電話一四二

營業種目
內地材　材木各種、羽柄材各種　建築諸材請負　礦山用坑木其他諸材請負
外材部　米松、米杉、大角製材調達　請負　其他
佐藤材木店
常磐線平町新川町
電話　三三五番

產婆
自宅に於て產姙婦をお取扱ひ致します
草野靜枝
平町研町九番地（公園下）
電話（呼）四四三番

父乙三郎儀病氣ノ處療養不相叶本月四日午後一時死去致候間此段御通知申上候也

追而葬儀ハ來ル九日午後一時自宅出棺性源寺ニ於テ佛式ニ依リ相營ミ申候

十二月七日

福島縣平町研町小路

男　阿部政右エ門